

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 95

学校名・団体名	福山市立蔵王小学校
HPアドレス	http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-zao/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	探究的な学習を通して育む思考力・表現力と自己 指導力

〈活動・研究の意義、目的〉

本研究は、「課題発見・解決学習」の過程で必要な「21世紀型スキル」の習得を図る指導の改善を図ることで児童の思考力・表現力・自己指導力を育成していくものである。生活科・総合的な学習の時間の学習と研究教科（図画工作科・国語科）を中心として全教科・領域と関連付け、「ふるさと」をテーマとした新カリキュラム「蔵王発・自分経由・未来行」を開発していく。新カリキュラム「蔵王発・自分経由・未来行」においては、自発的な探究学習を展開することと、全教育活動における「ひと」「もの」「こと（事象）」との「かかわり」や「つながり」を重視することで「課題発見・解決力」「論理的思考力・表現力」「協働性」「自己指導力」の「21世紀型“スキル&倫理観”」を育成する。

1 研究の概略

研究教科（国語科・図画工作科）を中心として、「探究的な学習モデル」「思考と表現のモデル」「ふりかえりモデル」を校内で作成・共有し、実践的に研究を進めることで「課題解決のための方法・既習事項の活用に児童が自信を持つこと」を目指した。またその課題解決過程において成長を実感する個や集団における自己指導力の育成「かかわりやつながりのある学びを通じた自己肯定感の醸成」をも目指している。

生活科・総合的な学習の時間におけるカリキュラム開発においては、教育課程全般を通して、「ひと」「もの」「こと（事象）」との「かかわり」や「つながり」を重視することで児童の「自己指導力」を高め、「21世紀型“スキル&倫理観”」を育む学びを実現しようとした。

指導方法の工夫と改善としては、以下3点の研究の視点に基づいて取り組んだ。

- ① 学習過程において、自己と他者とのかかわりやつながりがある学びの機会を設定し、児童の自己肯定感を育む。
- ② 教育課程全般において、結果とプロセスに目標を設定し、振り返りを位置づけながら取り組むことで、自己指導力を育む。
- ③ 思考過程・話し合い過程における「かかわりつながり名人（思考と表現のモデル）」を習得させ、「課題発見・解決学習」を通して成長する自己と集団を実感させる。

2 主な研究内容と活動内容

(1) 研究の視点に基づいた実践

- ① 教育課程全般において、自己と他者とのかかわりやつながりがある学びの機会を設定し、自己肯定感を育む取組。

<教育活動全般における児童と児童 集団と集団のかかわり>

★ピアサポート・異学年交流

<教育活動全般における児童と地域 児童と保護者のかかわり>

★学校支援委員会（ゲストティーチャー） 栽培活動・昔の遊び・茶道体験・はね踊り・史跡巡り

★手紙のやりとり 暑中見舞い・年賀状・行事への招待状・礼状・敬老祝い



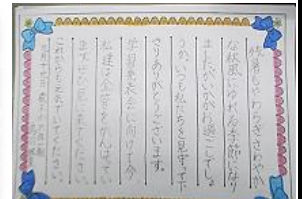
2年生「1年生への音読劇発表」



3年生 水鉄砲づくり

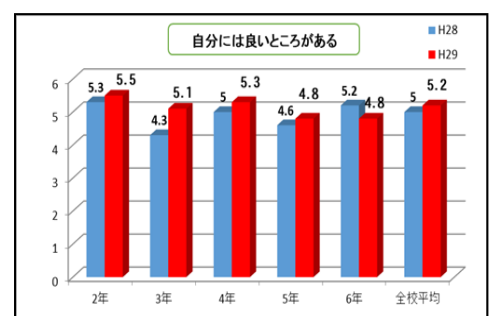


6年生 跳ね踊り
で国際交流



地域の方への招待状

自己肯定感に関わる児童アンケート「自分には良いところがある」の項目における児童の回答の「とてもあてはまる」から「まったくあてはまらない」までを6点～1点として平均値を出し、昨年度と本年度を同集団で比較してみたところ、5学年中4学年で意識が向上し、学校全体の平均も向上した。昨年度の取組をもとに今年度の全教育活動を見直し、自己と他者のかかわりやつながりがある学びを設定したことによる意識の変容が見られる。



- ② 教育課程全般において、結果とプロセスに目標を設定し、振り返りを位置づけた学びを成立させることで、自己指導力を育む取組。

本校では、児童自らが自己実現を図る「自己指導力」を育成することを「学習活動づくり」の重要な視点として取組を進め、「自己指導力」を右のように子どもの姿で捉え実践を進めた。

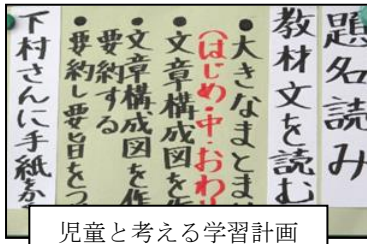
教科指導だけでなく、学校行事等すべての教育課程における目標設定と振り返りのある学びを重視し、「いつ」「何を」「どれくらい」取り組むのかを明確に努力目標を設定し、振り返りをさせたり、児童集会で各学級の取組を紹介・交流させたりして全校にその取組を広げていった。

- ③ 思考過程・話し合い過程における「かかわりつながり名人」を習得させ、「課題発見・解決学習」を通して自己と集団を成長させる。

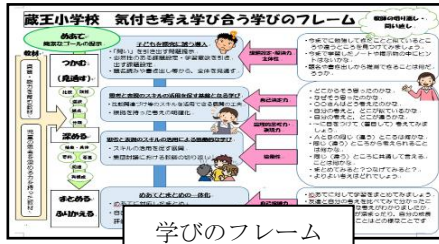
自己指導力が高められた子どもの姿

- 課題を見出すことができる。 自己決定
- 目標を持ち、計画的な取組ができる。 自己責任
- 自己の役割を自覚し、責任を持って成し遂げる。 協働性
- 継続的、協動的に課題に取組む。 メタ認知力
- 自己の活動・学びを評価し、修正しようとする。 挑戦意欲
- 挑戦しようとしている。

- ・学習集団・学習方法を選択する課題別コース学習
- ・課題設定・計画立案に児童が参画する学び
- ・「思考・表現・振り返りモデル」の提示と活用による「気づき考え学び合う学び」の形成



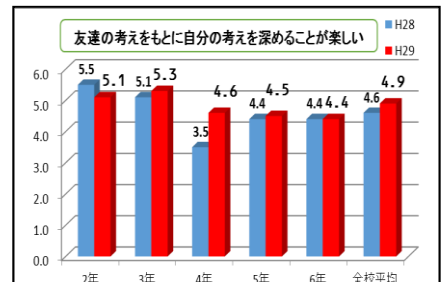
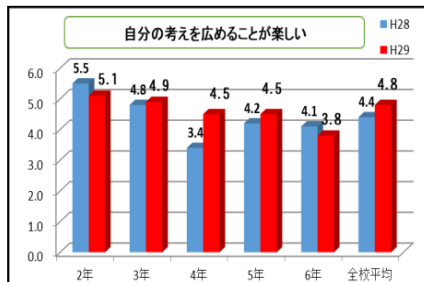
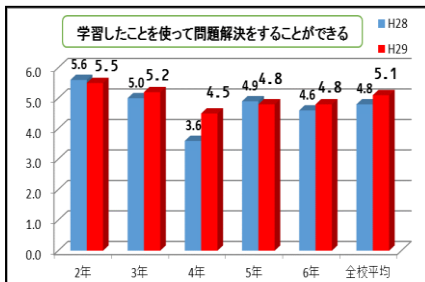
児童と考える学習計画



学びのフレーム

かかわりつながり名人

このような学びを重視したところ、「学習したことを使って問題解決をすることができる」「自分の考えを広めることが楽しい」「友達の考えをもとに自分の考えを深めることが楽しい」の項目において、昨年度と本年度を同集団で比較し、どの項目においても学校全体の平均値が向上し、児童の意識は変容した。



(2) 「ふるさと」をテーマとした新カリキュラム「蔵王発・自分経由・未来行」において、付きたい力（思考力・判断力・表現力）を明確化した単元計画を立案する。

- 第1学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～わくわく どきどき大好き蔵王／見つけたよ蔵王の自然／見つけたよ きらり蔵王の人たち～」自然豊かな郷土蔵王の四季・自然・地域の人々とかかわる。学んだことを幼稚園児・保育園児に伝える。
- 第2学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～大きく育てばくらの野菜／集まれ遊びの達人／はばたけすてきな2年生～」四季を通じて学校農園で野菜を栽培・収穫することを通して、地域の人々と関わり学んだことを他学年に伝える。
- 第3学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～蔵王の自慢 見つけ隊～」歴史のある郷土の伝統行事・地域行事とかかわる。遊びや栽培活動を通して地域の自慢・宝を発見し、地域紹介リーフレットを作成して家庭や地域の方々に紹介する。
- 第4学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～守ろう 福山 守ろう 蔵王の暮らし～」郷土の環境問題を基点に、郷土の環境や限りあるエネルギーについて考え、資源回収活動・3R大作戦・エコトライアスロンを通して限りある資源を大切に取る取組を家庭や地域に発信していく。
- 第5学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～蔵王 農業ガイドブックをつくって発信しよう～」自然豊かな郷土の地形を活用し農業を活性化しようとした郷土の人々から学び、限りある資源を大切にしながら郷土を発展させていく取組について、ガイドブックを作成して家庭や地域に発信していく
- 第6学年「蔵王発・自分経由・未来行 ～未来につながる伝統文化サミット～」 「アジア少年少女国際交流」の機会を活用し、郷土の伝統文化（はねおどり）や日本の文化について学習をすすめ、アジアの少年少女と交流する。郷土の未来図をデザインし、「福山市子ども議会」「アジア少年少女国際交流サミット」にてエネルギー問題・国際協力・国際平和について提言する。

(3) 成果と課題

- ◎ 教育課程全般において、「かかわりやつながりのある学び」と「結果とプロセスに目標を設定した振り返りを位置づけた学び」を取り入れることによって、個や集団の成長を実感する学習が活性化し、認め合い高め合うことの大切さを実感した児童の反応が増えてきた。
- ◎ 指導者が、課題解決のための方法・既習事項の活用におけるモデルを提示し、繰り返し活用させる場面を設定することで、児童は「課題解決のスキル」を身に付け、思考・表現における自己と集団の成長を実感することができた。
- ◎ 「活用」「学び合い」「自己指導力」に関わる児童アンケートの自由記述を分析すると、「自分は〇〇ができるから・・・」の様に個人の中での自尊感情の高まりだけでなく、「友達の考えを聞いて共感できた。自分の考えも深まった」「自分の意見でみんなの考えが変わったりするのが楽しい。自分の考えが大切に思えてくる」など、「かかわり」「つながり」を通じた社会性に基づく自己有用感へと変容している。継続して「21世紀型“スキル&倫理観”」でつないだ全教育活動の更なる見直しと実践化を図る。